

愛知県立成章高等学校

創立百二十周年記念特集



創立百二十周年記念事業と記念行事

本校は令和三年度、創立百二十周年を迎えました。明治三十四（一九〇一）年に「田原尋常高等小学校付設成章館」として、旧田原藩の藩校「成章館」の文字が復活した時を起点にカウントしたものです。

創立百二十周年に際して、同窓会（成章会）とPTAの役員の方々と教職員からなる準備委員会（後に実行委員会）が組織され、記念事業と記念行事の企画が進められました。また、その資金となる募金活動についても、特定寄付と一般寄付に分けてお願いすることになりました。

そして、このご時世で、一度は計画の見直しや実施時期の再検討など難しい問題もありましたが、令和三年四月三十日（金）には、オオタザクラ植樹式を、令和三年十月二十日（水）には、YouTubeのライブ配信という方法にはりましたが記念式典を開催することができました。

また、創立百二十周年記念事業や記念行事について、広く同窓生のみならず関係のみならず告知できるよう、成章会ホームページの中に「創立百二十周年特設ページ」を令和三年八月八日（日）に開設しました。（<https://www.seisho-kai.org/120th>）

記念事業につきましては、オオタザクラの移植に最適な時期を

選んで、令和三年三月二十四日（水）に植樹が完了し、説明板の設置も年度末には完工しました。

オオタザクラについては、その名前の謂われとなった、本校の



受け継ぐ120年の伝統 語り継ぐ120年の歴史

120th Anniversary

SEISHO HIGH SCHOOL

ただいたお客様が五百三十二名
(総来館者数四千五百十六名) (と
もに暫定値) に達しました。

また、記念式典に供するための
記念リーフレットとクリアファイ
ルの作成については、それまでに
生徒のみさんから募集して採用
したキャッチフレーズとロゴマー



前身、成章中学校の卒業生
である太田洋愛のポタニカ
ルアートに関わる展示が、
田原市博物館で企画展「日
本ポタニカルアートの巨
星 太田洋愛展」と題して令
和三年十月二日(土) から
十一月二十八日(日) まで
開催され、記念事業の「太
田洋愛ポタニカルアートの
啓発活動」の一環として、
「特別引換券」をご利用い

くをあしらいました。記念リーフレットは内面に「創立百二十年
のあゆみ」と題して、沿革と生徒の活躍をまとめました。また、
クリアファイルの裏面には太田洋愛の描いたオオタザクラを配し
ました。

そして、記念式典に先立ち令和三年十月九日(土) 午後一時
三十分から、「創立百二十周年」を冠した、式典当日の各社新聞
記事に情報を供するための座談会を開催しました。場所は崑山会
館レセプションホールを使用しました。石黒功実行委員長(同窓
会長)の趣旨説明の後、小林一弘(高十七回)さん、山下政良
(高十九回)さん、河合利則(高二十四回)さん、鈴木照彦(高
二十五回)さん、青山昌俊(高三十六回) 校長先生が参加しまし
た。進行は岡本幸樹さんと田中ほの夏さん、アシスタントを中川
愛梨さんと白石あんさんが務めました。そして、式典当日の東日
新聞には、見開き二面にわたり「歴史と伝統継承し新たな未来へ」
と題して掲載されました。

記念事業の柱の一つである体育館の緞帳一式と防球ネットの更
新工事が令和三年十二月一日(水)と二日(木)に行われました。
なかなか記念事業が進まない中、幕の素材や色合いはある程度選
んできたのですが、いざ、工事の段になると、源氏幕に刺繍する
文字の文言やデザイン、水引幕に掲げる校章の大きさや色合いな
ど、解決するべきことが多々ありました。しかし、両日、現場で
工事にあたった専門業者のみなさんのお仕事は、まさに職人技で、
レーザー墨出し器のビームを基準にしてミリ単位の調整をされて
いました。



また、募金活動も、特定寄付については、目標額の千五百万円に十月二十五日（月）に達成しましたのでこの口座は閉鎖しました。そして、一般寄付については、令和四年の一月末現在、目標額の千二百万円に対して千万円を超え約九十%の達成率となっています。ご協力、ありがとうございます。

準備委員会ならびに実行委員会の記録

第一回準備委員会 令和元年九月二十八日（土）

- 一、創立百二十周年記念事業の概要について
- 二、記念事業実行委員会の組織について
- 三、記念事業の準備日程について
- 四、専門部会より

第二回準備委員会 令和二年一月三十日（木）

- 一、総務部会から記念式典について
- 二、記念事業部会から記念事業内容について

三、財務部会から募金規模と方法について

第三回準備委員会 令和二年三月二十三日（月）

- 一、新型コロナウイルス感染症対策について
- 二、記念事業の追加内容について

第四回準備委員会 令和二年六月十六日（火）

- 一、事業の延期について
- 二、講演会の人選と内容について
- 三、寄付の延期について

第五回準備委員会 令和二年十一月十三日（金）

- 一、令和三年の記念事業・計画の検討について
- 二、田原市博物館の太田洋愛展について
- 三、記念品について
- 四、事業運営の予算について

第六回準備委員会（第一回実行委員会）

令和三年一月二十六日（火）

- 一、準備委員会を実行委員会に移行する
- 二、募金趣意書・収支予算計画書について
- 三、募金活動について（募金期間を令和三年八月一日から令和四年七月三十一日とする）
- 四、今後の事業計画の確認について

① 三月中旬にオオタザクラを移植

② 四月三十日（金）にオオタザクラ植樹式

③ 十月二十日（水）に創立百二十周年記念式典

④ 記念品としてクリアファイルの作成

⑤ ログマーク・キャッチフレーズの募集

⑥ 開設準備中の成章会ホームページ (<https://www.seisho-kai.org/>) に順次掲出

第二回実行委員会 令和三年四月二十日（火）

- 一、キャッチフレーズ・ログマークの募集について
- 二、一般寄付の返礼品について
- 三、記念式典の講演会の演者について
- 四、オオタザクラの移植と植樹式の進め方について
- 五、募金活動の準備状況について

第三回実行委員会 令和三年六月二十二日（火）

- 一、新型コロナウイルス感染症対策について
- 二、キャッチフレーズ・ログマーク（決定）について
- 三、記念式典の進め方（リモート併用）について
- 四、記念リーフレットの作成について
- 五、体育館の緞帳など諸幕の色や素材の決定と工事日程について
- 六、野球部の雨天練習場（シート張替え）の工事日程について
- 七、募金活動の具体的な分担と進め方について

第四回実行委員会 令和三年九月七日（火）

- 一、記念式典の進め方（講演会は中止、華山会館からYouTubeのライブ配信）について
- 二、記念リーフレットの体裁について
- 三、記念品（クリアファイルなど）の発注について
- 四、感謝状の作成について
- 五、記念式典当日の進行と打合せについて
- 六、体育館の緞帳など諸幕と防球ネットの設置工事の工程について
- 七、体育館の放送設備の設置工事日程について
- 八、野球部の雨天練習場の工事日程とバレーボール支柱の購入日について
- 九、太田洋愛ボタニカルアートの啓発活動への具体的な方策について
- 十、九月六日現在の募金状況（五十%超）について
- 十一、PTA会員のみなさんへの募金依頼について

第五回実行委員会 令和三年十二月十七日（金）

- 一、収支予算計画書（修正案）について
 - 二、返礼品（一般寄付）の送付について
 - 三、国際交流基金の運用について
- 記念事業（「記念リーフレット」から）
- 一、記念式典の開催

記念式典は、令和三年十月二十日に華山会館からYouTubeのライブ配信で行います。

二、創立百二十周年記念リーフレットの発行

記念式典に合わせて創立百二十周年記念リーフレットを作成し、創立百十周年以降の十年間の記録を生徒の皆さんの活躍とともに紹介します。

三、国際交流基金の積立

平成二年（一九九二）に当時の田原町（現田原市）は、ジョージタウン市（アメリカ合衆国ケンタッキー州）と姉妹都市になりました。その翌年、本校はジョージタウン市にあるスコット高校と姉妹校提携し、以来スコット高校に生徒を派遣しています。これら短期研修派遣等の国際交流事業に充てるため、基金の充実を図ります。

四、緞帳の整備（舞台用諸幕を含む）

体育館の緞帳等の老朽化に伴い、緞帳等の舞台用諸幕及び装置関係一式を新たに整備します。

五、体育館防球ネットの更新

体育館防球ネットを更新し、体育館設備の適切な維持管理を行います。

六、体育館放送設備の更新

体育館放送設備の老朽化に伴い、調整室機器、舞台袖機器、スピーカー、マイク等の設備を更新します。

七、創立百二十周年記念植樹、説明板の設置

令和三年四月三十日、本校中庭においてオオタザクラ植樹

式及び説明板の除幕式を行いました。

オオタザクラは、世界遺産白川郷にある本覚寺から本校創立百二十周年を記念して移植したものです。このザクラは、旧制成章中学校卒業の太田洋愛が本覚寺で発見した新種の八重桜で、その名にちなみ命名されました。

八、太田洋愛ポタニカルアートの啓発活動

太田洋愛の功績を広く知っていただく啓発活動を行います。田原市博物館では、十月二日(土)から十一月二十八日(日)まで企画展「日本ポタニカルアートの巨星 太田洋愛展」が開催されます。

九、部活動支援

劣化の著しい部活動施設の整備を行うもので、野球部雨天練習場のシート張替え及びバレーボールの支柱を更新し、活動を支援します。

オオタザクラ植樹式

日時 令和三年四月三十日(金) 午後三時二十分から

会場 各教室および体育館 中庭

次第 講演会(動画視聴)「太田洋愛とオオタザクラ(解説)」

田原市博物館館長 増山禎之氏
オオタザクラ披露

説明板除幕

太田洋愛とオオタザクラ

増山禎之 田原市博物館館長



太田洋愛画「オオタザクラ」

愛知成章立成章高等学校創立百二十周年記念事業「オオタザクラ植樹式」配布資料
令和三年四月二十日(金)

い帯既の桜で、この新種の桜を大井次三郎博士は、発見者の洋愛を称え「オオタザクラ」と命名しました。誰も気付かなかった新種が、ひとりの植物画家によって発見されたのでした。
この成果は大井博士との共筆で1972(昭和47)年に医書「日本桜集」にまとめられています。また「原色日本のラン」(原色図鑑原色植物)などの著書、「大田洋愛画集」など数多くの著作で残されています。
洋愛の作品のすばらしさはもちろん、自分の夢をかなえるための蘭州に費った食費力、ポタニカルアートを芸術作品として世に広めたいという熱意、後進の若手なものを助ける情熱も、これからは、これからの人生で学ぶことがたくさんあります。
田原市博物館では10月21日～11月28日の日程で、太田洋愛展を開催します。私たちの先輩の魂のこめられた作品は見ごたえ十分です。

太田洋愛(1910-1988)は、成章高校の前身成章中学校の卒業生で、日本のポタニカルアート(植物画)の第一人者です。
太田洋愛は本覚寺とい、成章高校の近くで生まれ、小さなころから絵を紙にすることが好きで少年でした。卒業後、当時の蘭州に渡り、蘭州教育専門学校植物学教室で洋画と大井一郎博士に植物学を学びました。
結婚後、シベリアに留守され、帰国後は東京に出て、教科書や資料書に掲載する植物の原画を手がけながら、日本山花美術協会、日本理科美術協会の創立などに携わり、植物学美術界の中心となる役割を果しました。1970(昭和45)年には「日本ポタニカルアート協会」を創立されました。また、春になると、沖縄から蘭州まで日本各地を大回りする旅を繰り返しました。そして、その旅の途中、岐阜県白川村本覚寺で新種の桜を発見しました。オオタザクラは原色の花びらが多



蘭州の桜(1975年春)

蘭州の桜(1976年春)

蘭州の桜(1976年春)

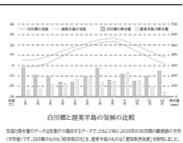


オオタザクラ



成章高校のオオタザクラ

オオタザクラは愛知成章立成章高等学校創立百二十周年記念事業「オオタザクラ植樹式」配布資料に掲載されています。この桜は、増山禎之氏が発見し、太田洋愛氏が命名したとされています。この桜は、原色の花びらが多く、非常に美しいとされています。また、この桜は、蘭州の桜と異なり、花びらが重なり合っており、非常に美しいとされています。この桜は、蘭州の桜と異なり、花びらが重なり合っており、非常に美しいとされています。この桜は、蘭州の桜と異なり、花びらが重なり合っており、非常に美しいとされています。



自校にオオタザクラを植樹した数(1975年～令和5年)の推移(令和5年4月現在)



成章中学校長



成章中学校長(1972年に本校創立100周年記念式典)



太田洋愛



オオタザクラ (太田桜)

Cerasus serrulata 'Ohta-zakura'

このオオタザクラは、世界遺産白川郷にある本覚寺から、本校の創立120周年を記念して移植したものです。

オオタザクラは、本校の前身である愛知県成命中学校の卒業生、植物画家の先駆け太田洋斐によって、1969（昭和44）年5月に本覚寺境内で新種の八重桜として発見されました。そして、報告を受けた植物学者大井次二郎は同年6月に、発見者の名前になみ「オオタザクラ」と命名しました。

花は大きく紅紫色で直径4～5cmのものもみられます。葉の表面や小さい枝には毛があり、繖しべの数も20個りかく、花弁も100枚以上あり、繖しべの塊が花弁から飛び出しているような特徴のある形状です。

現在でも、本覚寺の境内には、岐阜県指定天然記念物と白川村指定天然記念物のものがそれぞれ1本ずつあります。



太田洋斐が描いたオオタザクラ（画像は入部祥平氏提供）

〒1 岐阜県大野郡白川町

〒2 本名 太田 斐

〒3 1970 (昭和44) 年5月10日～1980 (昭和55) 年5月10日

〒4 国立科学博物館 植物分類学

令和3年4月30日

愛知県立成命高等学校創立120周年記念事業実行委員会



記念式典 (YouTubeのライブ配信)

日時 令和三年十月二十日(水) 午後二時二十分から
 会場 華山会館レセプションホール
 次第 開式の辞
 実行委員長挨拶
 来賓祝辞

感謝状贈呈

記念事業の紹介

キャッチフレーズ、ロゴマーク披露

校長挨拶

生徒代表挨拶

閉式の辞

「太田洋愛展」みどころ案内

感謝状贈呈者 (敬称略)

歴代同窓会長

松井昭

歴代校長

青木睦彦 鈴木雅也 木藤政美

歴代PTA会長

藤城公成 岩崎仁 神谷康元 河合幹雄 浦山誠之

創立百二十年記念事業功労者

太田修平 (オオタザクラ資料提供)

原田秀嗣 (オオタザクラ寄贈本覚寺住職)





実行委員長挨拶（創立百二十周年を迎えて）



本日はご多用の中、田原市長山下様を始め、本校発展にご尽力いただきました歴代同窓会長、校長、PTA会長他ご臨席頂いた皆様に心から感謝申し上げます。

さて本校は藩校「成章館」を母体に田原尋常高等小学校付設の「成章館」として明治三十四（一九〇一）年に再興されて以来、本年百二十周年を迎えます。今日に至るまで二万五千余名の卒業生が、地元東三河は元より、国内外各界・各方面で活躍しています。

さて昨年一月からコロナウイルス感染症が拡大し、世界的なパンデミックが続いています。わが同窓会も本部を含め全国八地区の成章会全てが昨年、本年と二度の総会を中止するなど、活動の制限を余儀なくされています。そのような中でも同窓会会員の皆様に母校の様子や百二十周年記念事業の内容をお知らせし、同窓生同士活発な交流を進めていきたいと二月末に成章会ホームページを開設し、様々な情報の発信を始めました。それにより新たな交流が出来つつあります。

本日の式典もコロナ禍で開催も危ぶまれましたが、規模は縮小したものの、各地区成章会の役員さんや現役生徒さんそれぞれ場所や教室でYouTubeライブ中継にて参加して頂いています。

今回創立百二十周年を記念し、校内施設支援として体育館の緞帳、防球ネット、放送設備の更新、また創立九十周年時に始まった国際交流基金の積み立てなどを行い、現役生徒の成長や母校の発展に寄与できればと存じます。

また今春には、本校中庭に成章と深い縁のあるオオタザクラの記念植樹を行いました。この桜は成章中学校卒（昭和四年）の植物画家・太田洋愛氏が岐阜県白川郷で偶々見つけ命名された八重桜です。この度の植樹は、本校OBの鈴木雅也先生が校長時代の（二〇一七年）同窓会年報で校門前のオオタザクラの樹勢が衰えていることを報告したことがきっかけとなり、そのことを知った岐阜成章会会員の武山教子さんが行動し、その熱意に賛同した多くの同窓生のリレーで三年がかりで実現しました。創立百二十周年キャッチフレーズとして生徒の皆さんの応募の中から「受け継ごう百二十年の伝統 語り継ごう百二十年の歴史」が選ばれました。歴史と伝統を大切にするとはこのような出会い、縁を大切にすることで、まさに同窓生が繋いだ「絆のサクラ」と呼べるのではな

いでしょうか。丁度今、田原市博物館で太田洋愛展も開催され、作品のみならず、その生涯、実績も紹介されています。小さい頃から絵を描くことが好きな少年が、大志を抱き努力を重ねる中で恩師に出会い薫陶を受け、植物画の道を究めたその生き方に触れて頂ければ幸いです。

最後に、田原市にもご多分に漏れず人口減、少子化の波が押し寄せていて歴史と伝統を誇るわが母校成章も過渡期を迎えています。今回記念事業として開催した地元の各分野で活躍しておられる同窓生による座談会でも、現役生徒代表がインタビューとなり様々な意見交換がなされました。詳しくは今朝の地元にも詳しく掲載されていますので、是非お読みいただきたいと存じます。今後各分野の関係者で対話を重ね、十年、二十年先を見据えた将来ビジョンを描き、わが成章高校が渥美半島の中核校としての役割を果たしていけることを願っています。本日ご臨席の皆様には引き続き、御指導、御協力のほど、よろしくお願いたします。

令和三年十月二十日

創立百二十周年記念事業実行委員長

成章会会長 石黒 功

校長挨拶



秋も一段と深まり、木々の葉も色づく季節となりました。本日、この佳き日に、愛知県立成章高等学校創立百二十周年記念式典を開催するにあたり、御多忙のところ田原市長山下政良様、前成章会会長松井昭様、本校歴代校長先生、そして本校歴代PTA会長様と、多数の御来賓の御臨席を賜り、誠にありがとうございます。新型コロナウイルス感染症の影響により、教職員、生徒はリモートでの参加となります。この様な状況下でも工夫をして記念式典が執り行われることは、大きな喜びであります。只今は、田原市長の山下政良様から、お祝いと激励のお言葉を賜り、感激いたすとともに、決意を新たにしたいところでございます。心より感謝申し上げます。また、記念事業実行委員会からご説明いただいたように、百二十周年の事業として、多くの設備の整備や国際交流基金等を計画していただき、将来にわたって生徒の学校生活を豊かにしてくれると思います。本校職員を代表し、厚く御礼申し上げます。

本校は明治三十四年田原尋常高等小学校付設の「成章館」として再興されて以来大正、昭和、平成、令和の五つの時代を亘って現在に至ります。その間、東三河を代表する学校として重要な役割を果たしながら、卒業生は二万五千余名を数え、県内はもとより、全国各地で活躍しています。

残念ながら本校も少子化の波に抗いきれず、学級減が進み、現在の一・二年生は学年で五学級規模になりました。この様な状況であっても藩校成章館以来の教育方針「文武両道」は受け継がれ、学習面では毎日の積み重ねにより、多数の生徒が全国の国公立大学をはじめ私立大学や専門学校に進学しています。就職希望者も公務員や地元企業に就職するなど着実な成果を上げています。また部活動でも県大会、東海大会、全国大会に出場するなどの活躍を続けています。

さて、生徒の皆さんは創立百二十周年という節目の年の在校生です。本校の歴史と伝統の重みを感じていると思います。「受け継ごう百二十年の伝統 語り継ごう百二十年の歴史」というキャッチフレーズは百二十周年にふさわしい想いが込められています。今日は本校の歴史と伝統に想いを馳せるとともに、現在の自分を振り返る絶好の機会です。百二十周年の記念すべき年に生徒と

して本校に身を置いたことに誇りを持ち、悔いのない高校生活を送ってください。皆さんの一層の努力で成章高校の伝統がより輝かしいものなることを期待しています。

私たち教職員も、この栄えある年に在職している「縁」を大切にしたいと思います。生徒とともに成章高校の更なる発展のために力を尽くしていく所存です。

結びに、本事業に御尽力を賜りました石黒功実行委員長をはじめ関係各位の皆様には、深く感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬ御支援、御鞭撻をお願い申し上げます。

令和三年十月二十日

愛知県立成章高等学校長 青山昌俊

生徒代表挨拶



創立百二十周年にあたり、生徒を代表いたしまして、挨拶を述べさせていただきます。

本校は、その起源となる旧田原藩の藩校「成章館」の創立から数えるところ、二百十年余り、時代が明治となり、再興から数えるところ、百二十年周年となります。このような歴史と伝統のある学校は、近隣はもとより、愛知県内では希少です。

また、この間、「成章」の二文字が校名から途絶えることはありませんでした。このような学校は、愛知県内では知る限り、他にはありません。

私は、来年の四月から社会人として仕事に就きます。社会人となつてからも、母校「成章」で学んだ一員としてのプライドを持ち、お客様や先輩方、地域の方々に胸を張って、「成章の出身です」と伝えることができるように、努力をしたいと思えます。

世界はこの後も混沌とした時代が続くと思われまます。自分の努力だけではどうにもならない時、努力が報われ

ずに、困ったことが起きた時、そんな時には多くの先輩方の力をお借りすることもあるかと思えます。

最後に、本校の「成章」の二文字は、そのプライドとブランドとともに、この後も途絶えることはけつしてないでしよう。自分自身が生きていく中でも、「成章」の二文字を意識することは、途絶えることはないと思えます。

社会の一員として、広く渥美半島のために貢献するとともに、この後続く、後輩の皆様方のためにも「成章」のプライドとブランドを守っていききたいと思えます。

令和三年十月二十日

生徒代表 岡本幸樹